

## 〈コトガラ評価〉を表す副詞「あいにく」の意味と用法

許燕 (名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程)

### 要旨

本研究では、「あいにく」には「物事の進捗を妨げる不都合な状態 A」と「話し手あるいは聞き手が望む(意図・期待)事態 B」が関係すると考える。ここでは実例調査結果に基づき、「あいにく」の中心的な構文パターンを「あいにく A 状態なので事態 B が実現しない(望む事態の不実現)」であるとした。具体的には、副詞「あいにく」で表される状態と関係する事態の述語の「意志」と「無意志」という性質、および「望む事態」の実現有無・可否に着目して、6つの構文パターンを取り出し、その意味・用法を記述した。その結果、まず「あいにく」の〈副詞用法〉〈連体用法〉〈述語用法〉間における使用場面や文構造の相違が明らかになった。次に、「あいにく」の評価対象が〈出来事〉6割程度、〈命題〉3割強、〈人の行為〉1割弱という分布をなしていることが明らかになった。最後に、〈出来事〉評価から〈人の性質〉評価にわたって、「あいにく」の意味が多義的に発展している様相を考察した。

### 1. 研究目的および問題提起

本研究は、〈コトガラ評価〉を表す副詞「あいにく」の意味・用法を考察し、記述する。ここで言う〈コトガラ評価〉とは、工藤(1997)における「叙述内容＝コトガラは、意味的に大きく命題・出来事・人の行為<sup>1</sup>などに分けうる」に由来する(工藤 1997[2016: 62])。副詞「あいにく」は典型的に2つの事態間の関係において用いられると仮定し、「あいにく」が現れる複文・連文の構造に着目して、その構文パターンを取り出すことによって、意味・用法を詳細に記述することを目指す。

### 2. 先行研究と本稿の立場

「あいにく」の先行研究には、その位置づけを行った研究(三上 1953, 渡辺 1971, 中右 1980, 工藤 1997)<sup>2</sup>が複数見られるが、本稿との関連性からここでは意味・用法の記述を行った森田(1989)や飛田・浅田(1994)、中田(1991)を取りあげることとする。

森田(1989)では、「あいにく」を「ある行為を行おうとするとき、それに不都合な状態が生じるというマイナスの状況に用いる」(傍点筆者)とされ、名詞・用言に係る言い方、および述語になる言い方、「挨拶言葉」(おあいにくさま)があると述べられている(森田 1989: 20-21)。

また、飛田・浅田(1994)は、「物事の順調な進行や成就を妨げる事態が起こったことを残念に思う様子を表す。マイナスイメージの語」(飛田・浅田 1994[2018: 4], 傍点筆者)と記述しており、述語・名詞に係る修飾語、および述語の用法があると述べている。こうした意味・用法の記述は、森田(1989)の記述とほぼ同様であると考えられる。いずれも、傍点をつけたよう

<sup>1</sup> 工藤(1997)では、「命題・出来事・人の行為」それぞれについて明確な定義はなされていないが、〈命題〉とはおそらく名詞述語文・形容詞述語文のような判断文に相当し、〈出来事〉とは無意志動詞文、〈人の行為〉とは意志動詞文にそれぞれ相当すると思われる。

<sup>2</sup> 三上は「約束的副詞」、渡辺・工藤は「評価副詞」、中右は「命題外副詞>価値判断の副詞」と位置づけている。

に2つの事態が関わり、「不都合な状態」が「行おうとする事態」を妨げていると記述されている点が重要である。

一方、中田（1991）は「あいにく」について「相手の感情の調整よりも状況が不都合だということを述べるもの」であるため「後に理由などが続くことが多い」（中田 1991: 100）と述べている。また、「おあいにくさま」に関して、「決まり文句」であり、「丁寧さや相手への配慮に欠ける面が大きいので、使用範囲が限られる」（中田 1991: 100）と指摘されている。

これらの先行研究は、「あいにく」の意味を記述し、用例ごとの係り先を指摘するに留まっている。

それに対して、許（2024）では「せっかく」との比較の中で「あいにく」を捉えている。具体的には、「あいにく」を〈副詞用法〉〈連体用法〉〈述語用法〉の3つに分類し、〈評価性〉に着目して、「①単文・複文構造」、「②述語の品詞性」、「③文末のモダリティ制限」、「④〈連体用法〉における相違」、「⑤〈（擬似）述語用法〉における相違」といった5つの観点から分析を行っている。その結果、「あいにく」に関して言えば、〈副詞用法〉の従属節の接続表現に見られる階層性、〈連体用法〉の被修飾名詞の傾向、〈述語用法〉の順接と逆接の関係性について明らかにしている。しかし、本稿で目指す、「あいにく」が用いられる構文パターンとその意味・用法の詳しい記述は行われていない。構文パターンを取り出すことで、「あいにく」の意味が実際にどのように実現し、用いられるのかを、より具体的に明らかにすることができる。

### 3. 研究方法

本稿は、実例に基づき「あいにく」の構文パターンを取り出し、その意味・用法を記述する。

表1 言語資料ごとの用例数分布<sup>3</sup>

対象外						研究対象		
BCCWJ						BCCWJ	新潮	新潮絶版
翻訳	非副詞	近代	国会議事録	韻文	全集			
82	23	7	3	1	1	398	30	80
117						508		

ここでは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下 BCCWJ）を用いて、検索キーを語彙素「生憎」に設定して515例を抽出した。そこから目視により117例<sup>4</sup>を「対象外」（表1参照）とした。加えて、『新潮文庫の100冊』と『新潮文庫の絶版100冊』より、「生憎|生憎く|合憎|相憎|相悪|あいにく|あひにく|あやにく|アイニク」<sup>5</sup>という文字列検索を実施し、それぞれ30例<sup>6</sup>と80例を収集した。以上の3つの言語資料から収集した有効例508例を研究対象として表1にまとめた。なお、本稿における実例はおよその割合を集計するためのものであり、分析・記述に際し考察する用例はこの限りではない。

<sup>3</sup> 許（2024）の注4に基づき表1を作成した。

<sup>4</sup> 現代日本語における自然な書き言葉を研究対象としているため、翻訳作品や発話の文字起こしである国会議事録、時代特定が困難な教科書や全集などは研究対象外とする。同じ理由から、『新潮文庫の100冊』と『新潮文庫の絶版100冊』からも翻訳作品を除外した。

<sup>5</sup> 本文における「あいにく」の表記（「生憎／生憎く／合憎／相憎／相悪／あいにく／あひにく／あやにく／アイニク」）を、ひらがなの「あいにく」に統一する。ただし、直接引用や実例は原文通りに記す。

<sup>6</sup> 『新潮文庫の100冊』の31例中「つきあいにくい」1例を除外した30例を研究対象とする。

本研究は、許（2024）に従い「あいにく」の出現位置と係り先の別によって、これを〈副詞用法〉、〈連体用法〉、〈述語用法〉の3つに分類して考察する。以下表2では、「あいにく」の用法および諸形式における用例数を割合とともに示した。

表2 形式および用法分布〔[]内は用例数, ()内は%〕

用法	副詞用法	連体用法	述語用法	総計
形式	あいにく～[286]	あいにくの N～[124]	あいにくだった[24] <sup>9</sup>	
	あいにくと～[55]	あいにくな N～[1]	おあいにくさま[7]	
	あいにくなことに～[4] <sup>7</sup>		あいにくだが[4] <sup>10</sup>	
	あいにくに～[2] <sup>8</sup>		あいにくなのは～[1]	
用例数	347(68.3)	125(24.6)	36(7.1)	508(100)

#### 4. 「あいにく」の意味と用法

第2節で言及したように、「あいにく」には「物事の進捗を妨げる不都合な状態」と「話し手あるいは聞き手が望む（意図・期待）事態」が関係するとされている。つまり、「あいにく」は、基本的に「不都合な状態 A により、望む事態 B が実現しない」という意味構造に用いられると考えられる。これは、「あいにく」が文構造的に複文や連文の構造で用いられることが多いことから明らかである。「あいにく」は、〈副詞用法〉〈連体用法〉では複文に用いられやすく、〈述語用法〉では連文に現れやすい。いずれの用法においても単文の用例はわずか（〈述語用法〉は用例なし）である。

表3 用いられる文構造および用例数〔()内は%〕

文のタイプ	副詞用法	連体用法	述語用法	総計
複文	233 (66.3)	96 (76.8)	1 (2.8)	327 (64.4)
連文	90 (25.9)	20(16.0)	35 (97.2)	145 (28.5)
単文	27 (7.8)	9 (7.2)	0 (0)	36 (7.1)
小計	347 (100)	125 (100)	36 (100)	508 (100)

また、「あいにく」が直接係る述語には状態性述語が多く〈副詞用法〉の場合全体の89.6%を占めているが、それは「望む事態 B が基準時となり、その基準時において不都合な状態 A が続いている」と表現されるためである。

次の(1)～(6)は、「あいにく」構文の顕著なタイプである。ここでは(3)に出現しているような「代替案」を「譲歩の事態 C」と称して考察する。なお、これらは4.1節の表4にまとめた〈副詞用法〉における構文パターンと同等のものである。

<sup>7</sup> 「あいにくなことに」をひとまとまりの1語と見なし、〈副詞用法〉に分類した（許2024）。

<sup>8</sup> 田辺聖子の『新源氏物語』という歴史小説にのみその出現が認められた。

<sup>9</sup> 「あいにくだった」10例、「おあいにくだった」2例、「あいにくだ」6例、「あいにくね」2例、「あいにくとね」1例、「あいにくな」1例、「あいにくな事でした」1例、「おあいにくと申すものでございましょう」1例を含む。

<sup>10</sup> 「あいにくだが」3例、「あいにくけど」1例を含む。

【不都合な状態 A の発生により，望む事態 B 不実現】

(1) あいにく雨なので，出かけられない。<sup>11</sup>

【望む事態 B を実行したいが，不都合な状態 A 発生】

(2) 出かけるつもりだったが，あいにく雨が降ってきた。

【不都合な状態 A の発生により，（望む事態 B 実現せず）代替案実行】

(3) あいにく雨なので，外出せず，家事に勤しんだ。

【望む事態 B 実現だが，不都合な状態 A 発生】

(4) 宅配が届いたが，あいにく留守にしていた。

【不都合な状態 A 発生だが，望む事態 B 実行】

(5) あいにく雨だが，遊園地に出かけた。

【不都合な状態 A 発生だが，望む事態 B 実現】

(6) あいにく雨だが，まだ富士山が見えるよ。

このように、「あいにく」は「不都合な状態 A」と「望む事態 B」の関係によって、様々なパターンを構成する。以上を踏まえ、本節では「あいにく」の中心的構文パターンを以下のように一般化し考察を進める。

中心的構文パターン：

あいにく A 状態なので，事態 B が実現しない（望む事態の不実現）

#### 4.1 「あいにく」の〈副詞用法〉

第 4 節の冒頭で記述したように、本研究では「あいにく」は、表 4 の各構文の分類や意味に影響する要素として、「実現を望む事態 B」や代替案である「譲歩の事態 C」の述語が意志的か無意志的か、また「実現を望む事態 B」の実現有無・可否が関わっていると考える。

〈副詞用法〉の場合、「実現を望む事態 B」が「未実現あるいは実現不可（タイプ①～④）」の用例が 85%強に上る。つまり、「あいにく」の典型的な使用は「不都合な状態 A に阻まれ、望む事態 B が実現しない」、もしくは代替案としての「譲歩の事態 C」が現れる構文である。

<sup>11</sup> 本稿では例文の分析において、研究対象語を    、その共起形式（逆接）を    、その共起形式（順接）を    、被修飾名詞を□、述語形式を    、その他の注目形式を■をもって示す。さらに、[ ]をもってモダリティ制限の作用域を表す。

表4 〈副詞用法〉における意味および構文パターン〔〔〕内は用例数, ( ) 内は%〕

意味	構文パターン	用例数	BC事態 述語	B事態 実現有無
①実現を望む事態の不実現 or 代替案の実現	あいにく A 状態なので, B できない[72] あいにく A 状態だ[41] / あいにく B できない[10] <sup>12</sup> あいにく A 状態なので, C できた[4]	127 (36.6)	無意志	未実現 or 実現不可 300 (86.5)
②望む事態の実行に際しての不都合な状態の発生	B したいが, あいにく A 状態だ[88]	88 (25.4)	意志	
③不都合な状態に際しての代替案の実行	あいにく A 状態なので (B できず) C した[47] あいにく B できず, C した[1] (B したいが) あいにく A 状態なので, 一B した[3]	51 (14.7)	意志	
④望む事態の実現に際しての不都合な状態の発生	B できたが, あいにく A 状態だ[34]	34 (9.8)	無意志	
⑤不都合な状態に際しての望む事態の実行	あいにく A 状態だが, B した[21] あいにく A 状態なので, B しなければならない[7]	28 (8.1)	意志	実現 or
⑥不都合な状態に際しての望む事態の実現	あいにく A 状態だが, B できた[18] あいにく B できた[1]	19 (5.5)	無意志	実現可能 47 (13.5)

#### 4.1.1 「実現を望む事態の不実現 or 代替案の実現」タイプ

① あいにく A 状態なので, {B できない/C できた}  
あいにく {A 状態だ/B できない}

このタイプは、実現を望みながらも不都合な状態により、「実現しなかった」あるいは「実現できなかった」〈コトガラ〉に対する話し手の評価を表すと考えられる。ここで言う〈不実現〉事態には、「行けない」「できない」などの可能動詞の否定形や「分からない」「持ち合わせていない」などの無意志的な状態変化の否定形による〈非実現〉を含める。したがって、〈不実現〉部分つまり「望む事態 B」には基本的に「無意志述語」が用いられると考えられる。

次の(7)は「曇っている」という不都合事態が「記憶を喚起してくれない」という、〈不実現〉事態を表している。(8)は、「家にいない」という不都合な状態のみが文中に現れており、「勝負できない」という望む事態の〈不実現〉は「勝負しましょうか」などから読みとれるものである。(9)は、「魚が釣れなかった」という望む事態の〈不実現〉のみ出現しており、「なぜ釣れなかったのか」という不都合な状態は述べられていない用例である。それに対して(10)は、不都合な状態 A「留守」によって望む事態 B「林さんに面会するチャンス」は実現できないが、代替案としての「護歩の事態 C」「彼の仕事の現場を見学する事」が実現したことを表す。

(7) 食堂車の窓ガラスに額をつけるようにして、瀬戸内海の島々を眺めるのだが、あいにく海も空も、どんよりと石油色に曇っていて、三十年まえの、新鮮な光りの記憶を喚

<sup>12</sup> 「あいにく A 状態だ」や「あいにく B できない」のタイプには、以下のような複文構造の例も含む。  
あいにく「利害関係に立ったグループからでる学問意見と理論は客観性を阻害しがちである」。  
(※〔 〕内全体で「A 状態」である。)

起してくれない。(田村隆一『詩人のノート』)

- (8) 「坊やは、なん年生ですか？」飛雄馬少年が質問した。「四年生だよ」俺が答えた。「それじゃ、その坊やと勝負しましょうか」「それが、あいにく、今日は家にいなくてね」(横田順彌『山田太郎十番勝負』)
- (9) 智司、午前中に帰ってくる。魚は、生憎釣れなかったようだ。母も、ズボンを持って座らせると調子が良いようだ。(安森敏隆『介護・男のうた 365日』)
- (10) あいにく、林さんは足を怪我したとかでポカラまで下っていて留守だったから、直接、林さんに面会するチャンスはなかったのだが、それでも彼の仕事の現場を見学する事が出来た。(校倉順三郎『野人志願』)

#### 4.1.2 「望む事態の実行に際しての不都合な状態の発生」タイプ

##### ② Bしたいが、あいにく A状態だ

タイプ②は、望む事態を〈実行〉するに当たっての不都合な状態を「あいにく」で表している構文である。望む事態には「う・よう」や「たい」、「つもりだ」などの意志や願望の表現が顕著に現れており、このような表現の代表的な形式を「Bしたい」とする。この場合、B事態の述語は意志的であるが、実現状況はA状態の妨げにより実現しなかったことを表す。

(11)(12)は、望む事態である「しとめてやりたい」や「出かけようとした」が、不都合な「時間がない」や「ヘリコプターが全て出払っていた」状態が続いていることを表す例である。

- (11) 「公爵、今度はぼくが相手だ！」怒号を受けたファルケンハイムは、それでも冷静そのもの。「ふむ、そなたとも因縁は浅くない。我が手でしとめてやりたいが…あいにく、その時間がないようだ」(赤城毅『帝都最終決戦』)
- (12) 私は調布の飛行場に電話して、ヘリコプターをチャーターして見物に出かけようとしたが、あいにくとヘリコプターは全て出払っていた。(嵐山光三郎『気分の構造』)

#### 4.1.3 「不都合な状態に際しての代替案の実行」タイプ

##### ③ あいにく A状態なので (Bできず) Cした あいにく Bできず、Cした あいにく A状態なので、¬Bした

このタイプは、状態Aがもたらす不都合な状態に際して、代替案である「譲歩の事態C」、あるいは「望む事態B」とは逆の「¬B」事態を実行するという構文である。タイプ②同様に、本構文においても「望む事態B」および「譲歩の事態C」の述語は意志的であるが、実現を望む事態Bに関して言えば未実現である。

(13)は「竜子が稽古をつけている」ためBが実現せず「寝ころがる」などのC事態の実現を表す「譲歩の事態C」が描かれている例である。(14)は「欠席する」という、望む事態「出席する」の反対つまり「¬B」事態を表す。(15)は不都合な状態Aが出現せず、「うちではできない」という望む事態Bが実現できないため「譲歩の事態C」を提案する例である。

- (13) この家へ、時折り、中尾通章という四十年配の男が訪ねて来る。生憎、竜子が稽古を

つけているような時は、奥の茶の間に片手枕で寝ころんだり、勝手に茶を淹れて喫んだりしながら、寿女を相手に冗談口をきいたりする。(矢田津世子『新・ちくま文学の森』)

- (14) まだ返事をされていないのであれば、招待状の中の返信はがきに、「あいにく都合がつかせませんので、欠席させていただきます」と書いて送ればよいです。(『Yahoo!知恵袋』, 2005年)
- (15) 最近は超音波などで外からかなりわかりますから。(中略)。—こちらで、できますか？(中略)—それがあいにく、うちではできないんですよ。G 医大病院へのご紹介状を書きますから、それを持っていらしてみして下さい。(干刈あがた『窓の下の天の川』)

#### 4.1.4 「望む事態の実現に際しての不都合な状態の発生」タイプ

##### ④ B できたが、あいにく A 状態だ

ここは、「望む事態 B は整っているが、その有効活用を妨げる不都合な状態 A」が述べられるタイプである。タイプ①同様、本タイプの「望む事態 B」にも「無意志述語」が用いられており、「譲歩の事態 C」が備わっても最終的には実現しない事態 B を表している。

(16)は「運動会が予定されていた」という望む事態 B が「雨が降った」という不都合な状態 A によって実現できなかった例であり、(17)は「増島城の跡がいまも残って」いて鑑賞できる事態が整っているにもかかわらず、「乳色の霧の中に閉ざされて」見られないという不都合な状態を表す例である。また、(18)は「社員がそばにいれば」という条件があれば、望む事態 B 「対処法がある」という整った環境が「他のフロアに行ってしまうて不在」だという不都合な状態 A によって活用できない例である。

- (16) その日は東京オリンピックの開催を記念した祝日に当たっていた。多くの学校や会社で運動会が予定されていたようだったが、あいにく朝から雨が降った。(沢木耕太郎『一瞬の夏』)
- (17) 町中には、飛騨唯一の平城であった増島城の跡が、石垣と堀だけがいまも残っている。あいにく、そういった歴史の香りは、乳色の霧の中に閉ざされていた。(門田泰明『黒豹ダブルダウン』)
- (18) 社員がそばにいれば、「申し訳ございません、夜のレジ精算で、九千円の誤差が出ましたらご連絡させていただきますので、お客さまのお電話番号を用紙にご記入いただけますか」といった対処法もあったのですが、あいにく皆他のフロアに行ってしまうて不在でした。(渡辺満『なぜ人はジュンク堂書店に集まるのか』)

このように、タイプ①～④はいずれも「望む事態 B」が「実現しなかった」もしくは「有効活用されなかった」ことに用いられる構文である。

#### 4.1.5 「不都合な状態に際しての望む事態の実行」タイプ

##### ⑤ あいにく A 状態だが、B した あいにく A 状態なので、B しなければならない

このタイプは、状態 A の不都合を克服して、望む事態を実行する(せねばならない)という

構文である。これは逆因果節に顕著に出現しており、「雨」や「霧」などの天候における不都合な状態を表す場合が多い。また、B事態の述語は意志的であり、「実現したあるいは実現させる必要がある」ことを表す。

(19)は「雨の日」という不都合な状態であるが「引っ越しを執行する」という事態、(20)は不都合な状態「大降りの雨」であるにもかかわらず「朗誦を続ける」という事態の実行を表す、逆因果節に用いられた例である。

- (19) あいにく雨降りでしたが、わたしたちは引越しを執行しました。(三浦哲郎『團欒』)  
 (20) クチコがイワノヒメにこの歌を朗誦するとき、あいにく大降りの雨だった。しかし、尊い大後の前なので、雨を避けたりせず、雨に濡れたまま平伏して朗誦する。(石川逸子『てこな』)

また、(21)(22)はいずれも因果節に「なければならない」が用いられた例である。(21)は「試験中」という状態であるためにB「勉強し」「憂鬱にかまけないように努め」なければならないこと、(22)は「習慣を断つことが難しい」状態でありB「文中の数か所の意味がはっきりするまで待つには努力が必要」であることを表している。

- (21) 自堕落な生活をしている月子が、母に自分の考えをおしついたりするようなことを、さっさと卒業してしまっているのも、憂鬱のたねなのだった。(中略)霧子はそこまで考えをおしすすめることが出来なかった。生憎、試験中で、勉強しなければならなかったために、憂鬱にかまけないようにまず努めなければならなかった。(藤原審爾『さきに愛ありて』)  
 (22) 外国語を学ぶ際によくする間違いは、その言葉を母国語とする人と話しているときにあるキーワードに集中し、その言葉の意味を知っていると思いこみ、そこから文全体の意味を推測することです。あいにくこの習慣を断つことは難しく、文中の少なくともあと数カ所がはっきりするまで待つには非常に集中した努力が必要です。(ステイブン・ウォルシュ『恥ずかしい和製英語』)

#### 4.1.6 「不都合な状態に際しての望む事態の実現」タイプ

- ⑥ あいにく A 状態だが、B できた  
あいにく B できた

これは、「望む事態 B」の述語が無意志的であるが、事態 B が実現したことを表す。

(23)は、「会場の設定に行き違いがあつて時間的に物足りない」という不都合な状態であるが、「遠方から駆けつけてくれた社長さんもいた」という、望ましい事態の実現である。(24)は、「風邪を引いた」不都合な状態の中でも「山に登ることができた」という実現事態を表している。(25)では、不都合な状態であるはずの「霧」が、「観光客が通常より少ない」ことや「霧の中から見え隠れする緑の山々もなかなか悪くない」という望む事態の実現につながっている。

- (23) 会長の福井社長のご苦勞が本当に伺われました。あいにく、会場の設定が行き違いがありまして、時間的に物足らなかつたこともありましたが、それでも遠方は鹿児島か



ら駆けつけてくれた社長さんもいました。(『Yahoo!ブログ』, 2008年)

- (24) 山また山の狭い道をさんざんに駆け抜けて、石鎚山の国民宿舎へ、陽がとつぷりと落ちてから漸くのことと到着。あいにく主久は風邪を引きどうなることかと心配したのですが, 何とか登ることができました。(石井善子『明日のおもいで』)
- (25) テジョン最終日は日帰りで山に行こうと僕が昨日提案したのだ。天気はあいにく霧。だがかえって観光客が通常より少ないし, 霧の中から見え隠れする緑の山々もなかなか悪くない。(草野唯雄『狙われた女鑑識官』)

このように、タイプ⑤と⑥は「望む事態 B」の述語が意志的と無意志的という違いはあるが、いずれも事態 B が実現する構文である。

以上の考察を通して、タイプ①～④は「望む事態 B」が実現しないことから、「あいにく」に差し出される「不都合な状態 A」は克服不可、タイプ⑤⑥は「望む事態 B」が実現することから、「不都合な状態 A」は克服可能な障害であることが明らかになった。

#### 4.1.7 「あいにく」の評価対象に見る多義性

第1節に引用したとおり、工藤(1997)では、「あいにく」は〈コトガラ評価〉、つまり〈命題〉〈出来事〉〈人の行為〉の評価に用いられると述べられている。しかし、「あいにく」が直接かかる「不都合な状態 A」の述語は、形容詞や形容動詞、名詞といった〈命題〉評価、存在動詞や無意志動詞のテイル・テシマウ形、可能形、受身形、否定形といった〈出来事〉評価が大多数である。第4節の冒頭で述べたとおり、〈副詞用法〉の場合このような状態性述語は全体の9割に達する。

一部(26)(27)のような、人の動作を表す用例は認められた(許2024)。しかし、これらは「破って捨てる」や「電話をかけている」という行為の様態ではなく、「電報がすでに手元にない」(26)や、「電話をかけていたがために客人を出迎えることができなかった」(27)という、話し手の行為による結果状態を表していると言えよう。

- (26) 「そうです。二十一日の《まりも》で到着するから、駅の待合室に来てくれという電報をもらったから行きました。その電報はあいにくと破って捨てましたが」(松本清張『点と線』)
- (27) 「おいそがしいところを、たびたびお邪魔します」三原は腰を浮かせた。「いや、いや、どうも。あいにくと電話をかけていたものですから, お待たせしました」安田は目もとに微笑を見せて、悠然と言った。(松本清張『点と線』)

一方で(26)(27)のような用例の場合、述語の性質的に状態性であることに変わりはないが、「評価対象」という観点では、人の動作や動作の継続を表しているということで〈人の行為〉に対する評価であると考えられる。次の表5は、このような基準に基づき、「あいにく」の評価対象を用法ごとに分類したものである。

以下のように、〈コトガラ評価〉を表す「あいにく」は、〈出来事〉評価が6割程度、〈命題〉評価が3割強、〈人の行為〉評価が1割弱を占めていることが明らかになった。しかし、「あいにく太郎は走った」や「あいにく花子はコップを割った」のような、典型的な〈人の行為〉に

対する評価は見当たらなかった。

表5 評価対象の用法ごと分布〔[]内は用例数, ()内は%〕

用法			副詞	連体	述語	小計1	総計
出来事			160	125	21	306	306 (60.2)
命題	人の性質		47		7	54	159 (31.3)
	物の性質		6			6	
	その他	名詞	時機[23]留守[22]天候[15]一般[11] 満室[11]仕事[5]病気[2]		1	90	
		形容詞・形容動詞		9			
人の行為			36		7	43	43 (8.5)
小計2			347	125	36	508	508 (100)

評価対象のうち、以下では〈命題〉の〈人の性質〉評価に注目して、「あいにく」の多義性について考察する。

「あいにく」によって差し出される「不都合な状態 A」は、〈出来事〉や〈人の行為〉評価の場合、「雨」などの天候、「留守」などの時機、「満席」などの状態に対する話し手の遺憾な気持ちである、と概ねまとめられよう。それに対して、〈人の性質〉に対する評価の場合、「不都合な状態 A」は話し手もしくは聞き手の「期待・予想に反して」という意味を出発点に、「皮肉やあきれ」から「自嘲」、「憤り」、「謙遜」などの意味に細分されると考えられる。

このような意味の派生関係は次の(28)~(32)の例から見てとれる。(28)の「心臓が悪い」という予想に反して「病気をしたことがない」という意味から、(29)の「狙いをつけた有利な結婚相手を実際に射落とす」相手への「皮肉・あきれ」の意味に発展し、そこから(30)の「仕事もお金もない」自分自身に対する「皮肉・あきれ」つまり「自嘲」という意味を表す。また、(31)の「年齢で結婚相手を選ぶ権利がない」のように、「不都合な状態 A」を向けられた当事者が不快感を覚えることによって、「皮肉・あきれ」は「憤り」へと変化すると言えよう。一方(32)の「王家の紋章など眼にしたことがない」と言いながらも「シャーミアン(娘)なら縫い取りができる」という伯爵の王に対する言い返しは、「皮肉・あきれ」や「自嘲」の延長線上にある「謙遜」ではないだろうか。

- (28) 「あなたの顔色はよくありません。心臓がお悪いのではないの?」「あいにく、この年まで病気をしたことがない。ご丁寧な心配は無用だ」(門田泰明『愛憎のメス』)
- (29) あいにく僕には、あんたみたいに、愛情なんて厄介なものを抜きにして、これと狙いをつけた有利な結婚相手を実際に射落とすような根性がないんです。(宮部みゆき『誰か』)
- (30) この休暇の機会にいざ東京へ! 秋葉へ! と言いたい所ですけど、あいにくと仕事有ってお金無しなので行けず。(『Yahoo!ブログ』, 2008年)
- (31) アナタをイイという人が居るから会ってみたい?とされました。でも、相手は五十過ぎ。即答でイヤですって断ったら、贅沢言える歳じゃないでよと言われてしまいました。(中略) 年齢で選ぶ権利もないのか!と言いたい。そんなくだらない価値観

の人に紹介されたって気分が悪いだけでしょ。『あいにく不自由してませんから』  
って言ってやれー！（『Yahoo!知恵袋』、2005年）

- (32) 「(前略) あいにくと我が家の女どもは王家の紋章など眼にしたことはないものばかり  
ですが、シャーミアンならば縫い取りができるでしょう」男は少しばかり驚いた顔  
でシャーミアンを見た。「ほう？シャーミアンどのが人並み以上に剣を使われるのは  
知っていたが、針も使われるのか？」「ま…陛下。それはあまりなおっしゃりよう」う  
ら若い伯爵令嬢は少しばかり紅潮して言った。（茅田砂胡『デルフィニア戦記』）

上述した「あいにく」の意味の派生関係を、ここでは下記の図1のとおりまとめて示す。

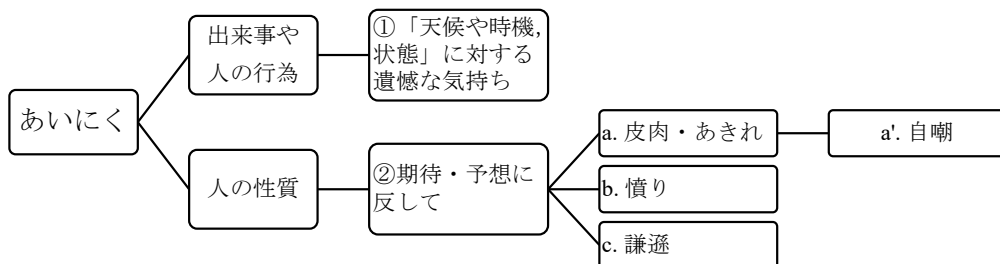


図1 各意味間の相関関係

#### 4.1.8 4.1節のまとめ

以上、〈副詞用法〉における「あいにく」の構文パターンを考察した。従来の研究では、「あいにく」用いられる文として、下記の(33)のような単文による、不都合な状態のみが述べられた用例が挙げられるのが一般的である。しかし、表3のとおり〈副詞用法〉において実際単文のみで成立する使用は1割未満であり、本稿で取りあげたような複文や連文構造に用いられる用例が9割強に上ることが明らかになった。このことは、「あいにく」の使用に2つの事態が関わることを表している。(33)の場合も、「出張中なので会えない」や「満席であるため入店できない」などの意味を背後に含んでいることが読みとれる。それに対して、(34)の「親切にも」や「残念ながら」のような「評価成分」（工藤1997）は、含みや前提を必要とすることなく文が成立すると考えられる。このように、典型的な「評価副詞」とされる「あいにく」などの副詞には、望む事態を連想させる働きがあると言えよう。

(33) あいにく 荻原さんは出張中です。/あいにく ただ今満席となっております。

(34) 典子さんは親切にも夜勤を代わってくれた。/残念ながら 今年は見ることができなかった。

また「あいにく」は、〈副詞用法〉において(35)のように「会話のやりとり」の場面での使用が2割程度となっている。この場合の「会話のやりとり」は、テキスト自体が会話文であっても双方の「やりとり」ではなく発話者一人で完結する場面を除く。すなわち、聞き手が望んでいる事態B「坊やと勝負したい」があり、それに対して「あいにく家にいない」と答えるというパターンになっていると考えられる。

- (35) 「坊やは、なん年生ですか？」飛雄馬少年が質問した。「四年生だよ」俺が答えた。  
「それじゃ、その坊やと勝負しましょうか」「それが、あいにく、今日は家にいなく  
てね」(横田順彌『山田太郎十番勝負』)(8)の再掲)

さらに、「望む事態 B」のモダリティにおいて、「なければならない」(21)や「必要だ」(22)という〈必要性〉を表すモダリティ表現の使用が一部認められた。このような、既実現事態に用いられる評価副詞が未実現の〈必要性〉の表現と共起している。これについて、工藤(1997)では以下のように指摘されている。

「あいにく、出掛けなければならない」が言えるのも、当為(行為の当然)の「べきだ」と比べて、事態の必要性という当為性の低いものだからだと考えてよいだろう。(工藤 1997[2016: 75])

(36)の「なければならない」は、「当為性の低い」〈必要性〉を述べるに留まっているため、「あいにく」であるという評価を下すことは可能であるのに対して、(37)の「べきだ」は、「話し手がその事態の実現を望む」という意味が強く、「実現を望む事態 B」に対して、さらに実現を望む事態を挙げるのは不自然であるため、容認されないのだと考えられる。

(36) A:明日、一緒にお昼とかどうですか。

B:ごめん、あいにく明日はランチミーティングに出なきゃいけないんだ。【必要性】

(37) A:明日、一緒にお昼とかどうですか。

\*B:ごめん、あいにく明日はランチミーティングに出るべきなんだ。【当為】<sup>13</sup>

#### 4.2 「あいにく」の〈連体用法〉

「あいにく」の〈連体用法〉は、〈コトガラ評価〉の評価対象のうち〈出来事〉に対する評価にのみ用いられ、〈人の行為〉や〈命題〉について評価する使用は認められなかった。また、次の表6にまとめたとおり、「あいにくのN」構文に入る被修飾名詞の95.2%が「悪天・荒天」の天候に関連した名詞であるという大きな特徴がある(許 2024)。

表6 〈連体用法〉における被修飾名詞一覧〔[]内は用例数〕

分類	具体例
悪天・荒天 [119]	天候、悪天候、天気、雨模様、雨、小雨、雨降り、雨の中、雨の日、雨の晩、雨と寒さ、曇りのち雨、曇り、薄曇り、曇り夜、曇天、雲空、曇り空、空模様、雪模様、雪、大雪、強風、台風、大嵐、 <u>どんより</u>
時機[3]	シーズンオフ[1]、休業日[1]、七夕[1]
状態[2]	留守[1]、満席[1]
出来事(天候以外)[1]	返事

それに対して、前掲の表5に示したとおり〈副詞用法〉に用いられる名詞述語の場合、天候

<sup>13</sup> ここでは「\*」を非文を示す記号として用いる。

を表す名詞は15例とわずかである。これは、「あいにく」によって提示される「不都合な状態 A」が天候関連である場合、〈副詞用法〉と〈連体用法〉の間にはある種のすみ分けがなされていることの現れである（許 2024）。

〈連体用法〉の場合、「望む事態 B」の実現有無に関して〈副詞用法〉とは多少異なる様子を呈している。タイプ⑧～⑪（表 7）の事態 B は未実現であり、両端のタイプ⑦と⑫の事態 B は実現しているのである。以下表 7 の順に構文パターンを考察する。

表 7 〈連体用法〉における意味および構文パターン [ | ]内は用例数, ( )内は%

意味	構文パターン	用例数	BC 事態 述語	B 事態 実現有無
⑦不都合な状態に際しての望む事態の実行	あいにくの天候だが、B した[38] あいにくの天候で、B せざるを得なかった[1]	39 (31.2)	意志	⑦+⑫ 実現 or 実現可能
⑧実現を望む事態の不実現 or 代替案の実現	あいにくの{天候/出来事}で、B できない[22] あいにくの天候で、B できず、C できた[5]	27 (21.6)	無意志	未実現 or 実現不可 77 (61.6)
⑨望む事態の実行に際しての不都合な状態の発生	B したいが、あいにくの天候だ[20]	20 (16.0)	意志	
⑩不都合な状態の発生	あいにくの天候だ[15]	15 (12.0)	無意志	
⑪不都合な状態に際しての代替案の実行	あいにくの{天候/時機/状態}で、(B できず) C した[15]	15 (12.0)	意志	
⑫不都合な状態に際しての望む事態の実現	あいにくの天候だが、B できた[9]	9 (7.2)	無意志	⑦+⑫ 48 (38.4)

#### 4.2.1 「不都合な状態に際しての望む事態の実行」タイプ

⑦ あいにくの天候だが、B した  
あいにくの天候で、B せざるを得なかった

タイプ⑦は、「あいにくの天候」を克服して、「望む事態 B」を実行する構文であり、事態 B は実現している。(38)は B 事態の実行を表す例であり、(39)は「あいにくの天候」のため「B せざるを得ない」ことを表す例である。

(38) 同行するためあとを追ってきたのである。折りからあいにくの小雨となるが、一行は四人となって雨をついて進んだ。(中村周一郎『北アルプス開拓誌』)

(39) あいにくの雨傘を差すのが大嫌いなまるた...そんなまるたでも傘を差さざるを得なかったよ。(『Yahoo!ブログ』, 2008 年)

#### 4.2.2 「実現を望む事態の不実現 or 代替案の実現」タイプ

⑧ あいにくの{天候/出来事}で、B できない  
あいにくの天候で、B できず、C できた

4.2 節で既述したように、タイプ⑧～⑪の「望む事態 B」は実現できない、あるいは代替案である「譲歩の事態 C」の実現を表す。(40)は「薄曇り」の影響で「光量が足りない」という不都合

合な状態により「思い通りに作業ができない」という不実現事態を表している。(41)は望む事態 B が実現できず、代替案「譲歩の事態 C」が出現した例である。

- (40) 写真撮影をするには好都合だったが、あいにくの薄曇りのために光量が足らず、今一つ思い通りの作業ができない。(奈良行博『五感で味わう中国大陸』)
- (41) あいにくの天気でガスがゆき交い、一度に全容は望めなかったが、まわりの紅葉した灌木がうすいガスに包まれる様は、しばし言葉もなく眺め入ってしまう程であった。(実著者不明『女性のための百名山』)

#### 4.2.3 「望む事態の実行に際しての不都合な状態の発生」タイプ

##### ㊟ B したいが、あいにくの天候だ

このタイプの「望む事態 B」は、述語は意志的であるが、実現できなかったことを表す。(42)は望む事態の実行を試みるが「あいにくの雨」により妨げられた例、(43)は望む事態を実行したが「あいにくの雨」であることを表す例である。

- (42) 茂吉はこの句が作られた日に山寺へ行って実際の蟬の声を聞こうとしたが、あいにくの雨で蟬も鳴かなかった。(北杜夫『マンボウ酔族館』)
- (43) 戸塚では、かねてから知りあいの松本屋に泊まった。翌十五日、朝の食事をとり、出発したもの、あいにくの雨である。(中江克己『江戸の遊歩術』)

#### 4.2.4 「不都合な状態の発生」タイプ

##### ㊠ あいにくの天候だ

このタイプは、状態 A「あいにくの天候」のみが出現する用例である。(44)(45)のように、「望む事態 B」や「譲歩の事態 C」が出現せずとも成立する構文である。

工藤(1997)では、評価には「個人的な予想や期待を基準にした評価もあれば、共同主観的ないし社会的に定着した評価、いわゆる評判や定評もある」(工藤 1997[2016: 62])と指摘されている。悪天・荒天を表す被修飾名詞は、一般的に「共同主観的ないし社会的に定着した評価」である「不都合な状態 A」として捉えるに足ると言える。

ただし、このような構文パターンであっても、実際は「実現を望む事態 B」を念頭に産出すると考えられる。これは、タイプ㊠の使用例が1割程度に留まっていることから明らかである。

- (44) 泉涌寺は皇室の菩提寺として知られ、九つの塔頭がある。そのひとつを先代・春男のときから栗石家の菩提を弔う寺と定めている。この日は朝から時折、小雨のバラつく、あいにくの空模様になった。(内田康夫『崇徳伝説殺人事件』)
- (45) 込木地藏桜三春町のさくらです。この日は、あいにくの雨模様で花もまだ5分咲きくらいでした。(『Yahoo!ブログ』, 2008年)

#### 4.2.5 「不都合な状態に際しての代替案の実行」タイプ

##### ⑩ あいにくの{天候/時機/状態}で、(Bできず)Cした

これは、望む事態 B が実現できないがために代替案として「譲歩の事態 C」を実行する構文である。(46)は用例数の最も多い天候名詞の用例であり、予定していた屋外の「花まつり」が開催できず、やむを得ず「開場を三島ホールに移した」という譲歩としての C を実行している。(47)は「シーズンオフ」という時機的、(48)は「満席」という状態的な不都合を表す例である。このように、(47)(48)は、望む事態 B を実行しようとするも「不都合な状態 A」に阻まれ、代替案の「譲歩の事態 C」を実行した例である。代替案であることは、「そのかわりに」(47)や「あきらめて」などの副詞的表現によって顕著に表れている。

(46) 第十三回烏ヶ森公園花まつりが開催されました。当日はあいにくの雨で、開場を三島ホールに移しましたが、三島おはやし会による郷土芸能や歌謡ショーが開催され、多くの観客を楽しませました。(『広報なすしおばら』, 2008/12)

(47) 野球が好きな功は、こんな時こそ野球がゆっくり見られるのに、あいにくのシーズンオフでと歎いていたが、そのかわりにお相撲を見ている。(木村梢『功, 大好き』)

(48) 約束してたランチ本当は“てんぷら”を食べに行きたかったんだけど電話したら、あいにくの満席...あきらめて別の所へお料理はチキンをチョイスした。(『Yahoo!ブログ』, 2008年)

このタイプには〈副詞用法〉と異なり、Bとは逆の事態(望む事態の反対→B)を行う「あいにくの雨で引き返した」のような用例は見当たらなかった。

#### 4.2.6 「不都合な状態に際しての望む事態の実現」タイプ

##### ⑪ あいにくの天候だが、Bできた

これは、不都合な状態 A「あいにくの天候」であるにもかかわらず、「望む事態 B の実現」を表す構文である。B 事態が実現するという点に関しては、タイプ⑦と同様である。(49)は「よく」や「望めた」という形容詞や可能動詞、(50)は「開催された」という受身動詞が用いられた例である。志波(2022)によると、上記の「望む」や「開催する」のような、「無対他動詞」(早津 1987)の可能形や受身形は、自動詞表現を補完するという共通点があり、いずれも実現局面に焦点を当てる構文に用いられるという。したがって、このタイプの B 事態は「自動詞の補完構文」とも言えよう。

(49) 翌日は磐梯山に。あいにくの雨でしたが、見晴らしは良く、檜原湖亀眼下に望めました。(石井善子『明日のおもいで』)

(50) 五月十日は、小雨降るあいにくの天気でしたが、市之代農業ふれあい公園内の田んぼで、今年も「親子米づくり体験講座」が開催されました。(『広報とりで』, 2008/11)

#### 4.2.7 4.2 節のまとめ

以上、〈連体用法〉における「あいにく」の構文パターンを考察した。まず、〈連体用法〉の場合、タイプ⑦や⑩のように B 事態が「実現もしくは実現可能」である 4 割弱を占めており、

この点是他用法と大きく異なる特徴の一つである。次いで、「あいにく」の被修飾名詞の95%強が天候に関連した名詞であるということから、〈副詞用法〉との間に「悪天・荒天」表現をめぐるすみ分けがなされていると指摘した。さらに、〈副詞用法〉同様、単文構造に用いられる「あいにくの」は全〈連文用法〉の7%程度とわずかであった。(51)のような単文構造でも、事実上「雨」と「巡拝」という2つの出来事がある点では複文と共通すると考えられる。ひいては、4.2.4節で既述したように、(52)のような単純な単文構造であっても、背後には「実現を望む事態B」が待機していると言える。

(51) あいにくの雨の中の巡拝である。車を停め、広い境内へ。(藤田豊『妻への贈り物』)

(52) あいにくの{雨だ/定休日だ}。

#### 4.3 「あいにく」の〈述語用法〉

〈述語用法〉における「あいにく」の構文は、全用例が「会話のやりとり」という使用場面に用いられている。したがって、自然と連文構造に使われやすいという特徴を持つ。実際、〈述語用法〉において連文構造を持つ「あいにく」の用例は全体の9割強を占めている(36例中連文35例、複文1例)。〈述語用法〉の場合、用例数が上位3つタイプにおいて「望む事態B」が未実現であり、これは全〈述語用法〉の8割強に上る(表8)。

表8 〈述語用法〉における意味および構文パターン〔|〕内は用例数、( )内は%〕

意味	構文パターン	用例数	BC事態 の述語	B事態 実現有無
⑬ 実現を望む事態の不実現 or 代替案の実現	あいにくだ。A状態だ(Bできない) [15] あいにくだが, {A状態だ/Bできない} [2] A状態だ(Bできない)。おあいにくさま[2] A状態だ。あいにくだ。Cできた[1]	20 (55.6)	無意志	未実現 or 実現不可
⑭ 望む事態の実行に際して の不都合な状態の発生	Bしたい。あいにくだ。A状態だ[4] Bしたい。おあいにくさま。(A状態だ) [3]	7 (19.4)	無意志	31 (86.1)
⑮ 不都合な状態に際しての 望む事態の否定	おあいにくさま。Bではない[2] あいにくだ。A状態だ。Bではない[2]	4 (11.1)	無意志	
⑯ 不都合な状態に際しての 望む事態の実行	あいにく {だ/だが}。A状態だ。Bした[3] A状態だ。おあいにくさま。Bした[1]	4 (11.1)	意志	実現 or 実現可能 4 (11.1)
⑰ その他の周位的タイプ	あいにくなのは、Bだ[1]	1 (2.8)	—	1 (2.8)

##### 4.3.1 「実現を望む事態の不実現 or 代替案の実現」タイプ

⑬ あいにくだ。A状態だ(Bできない)  
あいにくだが, {A状態だ/Bできない}  
A状態だ(Bできない)。おあいにくさま  
A状態だ。あいにくだ。Cできた



⑬～⑮の3タイプにおける「望む事態 B」は未実現であり、また B・C 事態の述語はすべて無意志的である。(53)は、「船長が町に出たまま戻っていない」という不都合な状態のみが「あいにく」によって差し出され、「船長に会う」という望む事態 B は省略された用例である。(54)では、「春が来た」という状態と「雪がいつ解けるか分からない」という望む事態の〈不実現〉を「ても」という条件節の中に用いている。また、「雪解け」を「宣孝は年が明けても来もしない」事態に例え、「おあいにくさま」をもって差し出すことによって話し手の不満や皮肉の意味合いが表現されている。(55)は、望む事態である「カウンターは満員」で実現できないが、「奥は空いている」という「譲歩の事態 C」の実現を表した用例である。

- (53) 「船長はどこだ？航海長は？」「あいにくな、町に出たまま戻っていない」「すると、残っているのは、おまえたちだけか？」(渡邊由自『愛の翼の聖天使』)
- (54) 式部は、どうせ来もしない癖にとすねて、春がきたってこの国の白山の雪は、いつ解けるかわかりませんのよ、お生憎さま。といい返す。結局宣孝は年が明けても来もしない。(瀬戸内寂聴『源氏物語』を旅しよう』)
- (55) とあるバーの木扉を開くと中はカウンターだけの狭いバーだった。満員である。カウンターの中にいたママが、「あらいらっしやい」と商売上の愛想を示した。「あいにくね、でも奥はあいてるわよ」(加賀乙彦『湿原』)

#### 4.3.2 「望む事態の実行に際しての不都合な状態の発生」タイプ

- ⑭ B したい。あいにくだ。A 状態だ  
B したい。おあいにくさま。(A 状態だ)

これは、望む事態 B の実行に当たって、不都合な状態 A を表す例である。(56)は「銅貨一枚余っていない」不都合な状態に際して「余っていたら回してほしい」という依頼表現、(57)は「肴を下さい」という依頼表現が用いられ、望む事態を表す例である。

- (56) 金貨が欲しいのか。—欲しいな。お前と俺じゃあ大分報酬が違ったからな。余っていたら、こっちへも廻しな。—生憎だったな。銅貨一枚余っていない。—そうか、ただ貰おうってわけじゃあないぜ。いいことを聞かせたいんだ。(小川国夫『或る聖書』)
- (57) 「肴を下さい」「おあいにく様」と、満里子は、答えた。「山椒魚は、切らしておりますから」(大佛次郎『宗方姉妹』)

#### 4.3.3 「不都合な状態に際しての望む事態の否定」タイプ

- ⑮ おあいにくさま。B ではない  
あいにくだ。A 状態だ。B ではない

これは、評価対象が〈人の性質〉になっているタイプである。(58)は「親切じゃない」という話し手の性質が望む事態の〈不実現〉B になっており、(59)は「上手に環境にとけこんでしまった」細君の性質を表す例である。加えて(59)は、「女」に期待する聞き手に対する話し手の「皮肉・あきれ」を表す。

- (58) 「本人が思い当たらないって言ってるのを、わざわざ教えて思い出させてやるほど、

こっちは親切じゃねえよ。あいにくな。(後略) (勝目梓『剥がし屋』)

- (59) 「四度目の奥さんて、うんと年齢がちがってたんでしょう？うまくいってるの？」  
「可愛い男の子がうまれている。ぼくなんかはらはらすこともないのだ。若い細君は上手に環境にとけこんでしまったよ。まったく、女って化物だね」「おあいにくさま」  
(丹羽文雄『顔』)

#### 4.3.4 「不都合な状態に際しての望む事態の実行」タイプ

⑩ あいにく {だ/だが}。A 状態だ。B した  
A 状態だ。おあいにくさま。B した

タイプ⑩以下は、「望む事態 B」の実現を表す構文である。また、B 事態の述語は意志的であり、不都合な状態を克服して「望む事態 B」を実行するという意味を持つ。(60)は、「生憎でしたな」によって差し出される状態 A「助平おやじと一緒に姿を消した女将の居所を調べる」という望む事態の実行について許可を求める用例である。(61)は「ガムが最後の一枚」である状態に対して「半分をあげる」という望む事態 B の実行を表している。

- (60) 「その女も引っ越したわけか」「店が閉まるちょっと前ですかね。その助平おやじと一緒に姿が見えなくなりましたね」(中略)「生憎でしたな。その女将とやらの山梨での居所、調べてみましょうか」(渡辺房男『インサイダー』)
- (61) 「ありがとうございます。でもこれ最後の一枚？」「うん、あいにくね」「それじゃ半分あげるわ」  
(藤原正彦『若き数学者のアメリカ』)

#### 4.3.5 「その他周辺の」タイプ

⑪ あいにくなのは、B だ

このタイプは、(62)の1例のみであるが、「あいにくなのは～ということだ」という「ひっくり返し文」(工藤 1997 [2016:60])の構文である。そのため、ここでは周辺の用例とし、上述したような述語が意志的か無意志的か、「望む事態 B」の実現有無に関する議論はしないこととする。

- (62) 記事をもっと細かく選べるといいのだが。カテゴリー単位というのもよしあしかもしれないし。それと何よりあいにくなのは、コメントやトラックバックは記事にならないという制約だ。(『Yahoo!ブログ』, 2008年)

#### 4.3.6 〈副詞用法〉との関連性の中で見る多義性

「あいにく」の多義性については、4.1.7 節で〈副詞用法〉を中心に考察し、「あいにく」は「天候や時機、状態」における不都合から「期待・予想に反して」という意味へ、そこからさらに「皮肉やあきれ→自嘲」や「憤り」、「謙遜」の意味合いが派生したと述べた。このように、〈副詞用法〉では「あいにく」の評価対象に焦点を当てて多義性の派生順を考察した。

それに対して、〈述語用法〉になってくると、(63)の「あいにくな」などの形式を過渡段階としつつ、(64)(65)の「おあいにくさま」といった専用の形式を以て「皮肉」や「嘲笑」の意味合いを表していると言えるのではないだろうか。

- (63) 「本人が思い当たらないって言ってるのを、わざわざ教えて思い出させてやるほど、こっちは親切じゃねえよ。あいにくな。」(後略) (勝目梓『剥がし屋』) ((58)の再掲)
- (64) 式部は、どうせ来もしない癖にとすねて、春がきたってこの国の白山の雪は、いつ解けるかわかりませんのよ、お生憎さま。といい返す。結局宣孝は年が明けても来もしない。(瀬戸内寂聴『源氏物語』を旅しよう) ((54)の再掲)
- (65) 「四度目の奥さんて、うんと年齢がちがってたんでしょ？うまくいってるの？」「可愛い男の子がうまれている。ぼくなんかはらはらすることもないのだ。若い細君は上手に環境にとけこんでしまったよ。まったく、女って化物だね」「おあいにくさま」(丹羽文雄『顔』) ((59)の再掲)

#### 4.3.7 4.3 節のまとめ

以上、「あいにく」の〈述語用法〉について考察した。〈副詞用法〉と同じく、〈述語用法〉においても「望む事態 B」が「未実現・実現不可」の割合は9割弱に達した。次に、「不都合な状態 A」に遭遇した聞き手に対する同情や遺憾な気持ちから、「皮肉やあきれ」などへと意味が変化を重ねた結果、「皮肉」や「嘲笑」に特化した「おあいにくさま」のような形式が発達してきたと考えられる。なお、タイプ⑩の「あいにくなのは、Bだ」に関しては、ひっくり返し文であるため、周辺的な用法として位置づけ割合を算出するに留めた。

### 5. まとめと今後の課題

本稿では、〈コトガラ評価〉を表す副詞「あいにく」の構文パターンを用法ごとに考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

第一に、「あいにく」の〈副詞用法〉〈連体用法〉〈述語用法〉間における使用場面や文構造の相違が明らかになった。構文パターンの分析においては、「不都合な状態 A」と「実現を望む事態 B」、代替案「譲歩の事態 C」、「B とは逆の一B 事態」を設け、各構文の意味記述を行った。

第二に、〈連体用法〉では「あいにくの雨」のような天候に用いられる用例が95%強と圧倒的に多かった。また、「望む事態 B」が実現した場合の用例が4割を占めており、これは〈副詞用法〉や〈述語用法〉の15%程度に比べ非常に多いという違いが見られた。

第三に、〈出来事〉〈命題〉〈人の行為〉からなる〈コトガラ評価〉を表す「あいにく」の評価対象が、6:3:1の比重をもって分布していることが明らかになった。さらに、〈人の行為〉評価の1割には、「あいにく太郎は走った」のような典型的な動作を表す使用は認められなかった。

第四に、「あいにく」の多義性における記述を試みた。〈出来事〉評価から〈人の性質〉評価にわたって、「あいにく」の意味が「天候や時機、状態」における遺憾な気持ちから、「期待・予想に反して」へと変化し、また「期待・予想に反して」を軸に「皮肉やあきれ」から「自嘲」、「憤り」、「謙遜」という派生順を見た。さらに、このような意味の変化が「おあいにくさま」の「皮肉」や「嘲笑」の意味に連なっていくと考えられる。

以上のような考察を踏まえて、今後は「幸い」との比較の中でより詳細に検証したい。

#### 参考文献

許燕 (2024) 「「せっかく」の〈評価性〉をめぐる考察—「あいにく」との比較を中心に—」『名古屋大学

人文学フォーラム』6

工藤浩（1982）「叙法副詞の意味と機能—その記述方法をもとめて—」国立国語研究所『研究報告集 3』  
〔再録：工藤浩(2016)『副詞と文』, 3-57, ひつじ書房〕

工藤浩（1997）「評価成分をめぐる」川端善明・仁田義雄（編）『日本語文法 体系と方法』〔再録：工藤  
浩（2016）『副詞と文』, 59-80, ひつじ書房〕

工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房

国立国語研究所編（1991）『副詞の意味と用法（日本語教育指導参考書19）』国立国語研究所

志波彩子（2022）「自動詞・受身・可能・自発—自動詞的表現のパラダイグマティックな体系—」日本近  
代語研究会（編）『論究日本近代語第2集』, 313-325, 勉誠社

中右実（1980）「文副詞の比較」国廣哲彌編『日英語比較講座第2巻文法』大修館

中田智子（1991）「談話における副詞のはたらき」『副詞の意味と用法（日本語教育指導参考書19）』第三  
部, 81-107, 国立国語研究所

早津恵美子（1987）「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」『言語学研究』6, 79-109, 京  
都大学言語学研究会

飛田良文・浅田秀子（1994）『現代副詞用法辞典』〔2018年新装版参照〕東京堂出版

三上章(1953)『現代語法序説』刀江書院〔1972年復刊を参照, くろしお出版〕

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

渡辺実（1971）『国語構文論』塙書房

## 言語資料

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』中納言 2.6.0 データバージョン 2021.03

『CD-ROM 版新潮文庫の100冊』（翻訳作品33冊を除いた昭和戦後の45冊71作品）

『CD-ROM 版新潮文庫の絶版100冊』（翻訳作品32冊を除いた昭和戦後の39冊75作品）

## 謝辞

本稿の執筆にあたり、貴重なご助言をいただいた査読者の先生方、および指導教員の志波彩子先生に深く感謝申し上げます。なお、本研究はJST次世代研究者挑戦的研究プログラムJPMJSP2125の財政支援を受けたものである。「東海国立大学機構融合フロンティア次世代研究事業」に御礼申し上げます。